



チーム I
中川 忠則 議員

問 広報誌を子供の教育に

Q 広報誌が身近で見やすくなった（小池都知事の写真集を身近な例として示す）。しまばらんの4コマ漫画を子供たちが関心を持つように保育園・幼稚園に配布してはどうか。

A 広報誌は、すでに小中学校に配布している。保育園・幼稚園にはお願いしたい。できれば、島原の話題を取り入れシリーズ化したい。

Q 広告収入による発行は今後も続けていくのか。

A 本年度208万円程度の収入が見込まれ、新たな財源確保と経費節減になるので、引き続き活用していきたい。

問 幸田町との姉妹都市調印式について

Q 時期は。また調印式の形態はどのように考えているのか。

A 平成26年10月11日に幸田町と歴

史と文化の友好交流推進協定を締結しており、今年の同月同日に両市町の2会場で同時に姉妹都市締結式を準備している。

Q 4月から幸田町へ職員を派遣しているが、その目的は。

A 幸田町は、積極的に産官学連携や企業誘致を生かしたまちづくりをされており、近隣自治体を含めて、企業立地に向けた情報収集のため派遣している。

Q 塩野理事は8月末の任期で、国土交通省に帰られるが、市職員を国土交通省へ派遣することは、考えていないのか。

A 塩野理事を通じて相談したところ観光庁で受け入れ意向があり、申請を行い、7月から市職員を1人派遣することになっている。

問 NHK「にほんごであそぼ」について

Q 子供が釘付けになるほどの番組だった。再度開催してもらいたい。

A 全国から多くの誘致申請があるが、チャレンジしたい。

Q 経費はいくらだったのか。

A 本市の負担は会場の確保や周知宣伝、駐車場整理などで約24万円。



新風会
上田 義定 議員

問 ジオパークについて

Q 国内第1号の世界認定から8年が経過するが、これまでの投資額は。

A ジオパーク事務局を開設した平成20年度から9年間の負担金は5千万円である。

Q 経済的効果、その他の効果は。

A ジオパーク目的の宿泊・日帰りともに11・15%で、一定の効果があると思われる。関連商品の販売で利益を上げている地元業者もある。

Q 今後、毎年いくら費用がかかるのか。

A 年度で変動はあるが、年600万円以上の負担金は必要だと思う。

Q 当初は一定の効果はあったが、これ以上の費用対効果があるのかは疑問がある。ジオパークをやめてはどうか。

A 全国で43地域がジオパークに取り組んでいる。地方創生とも相まって各地域が特性を売り出そうとしている。楽しめるジオパークを目指し、全国の観光地に負けないよう取り組んでいきたい。

問 広馬場下公有水面埋立事業について

Q 何の土で埋め立てるのか。

A 国土交通省雲仙復興事務所の水無川砂防事業や林野庁の眉山治山対策事業で発生した土砂を利用させてもらえるようお願いしている。

Q 埋め立て後の利活用計画はどうか。坂本龍馬上陸の地や湊新地の橋など、住民の思い入れがある部分がある。近隣住民の理解を得られる事業として欲しいがどうか。

A まずは、災害時の一時避難場所として、平時は市民の健康増進やイベント開催など多目的広場としての利用を計画している。また船番所の歴史があり、それらをどの様な形で保存、活用ができるのか検討中である。

【その他の質問項目】
◇入札制度について
◇水道事業について